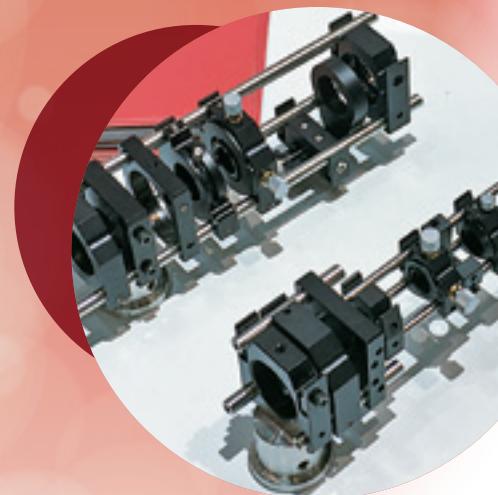


第42期 報告書

2016年6月1日 ▶ 2017年5月31日

Contents

株主の皆様へ
創立40周年の軌跡
2017年5月期業績（連結）
配当金・配当性向推移（連結）
2018年5月期業績見通し（連結）
2017年5月期業績のポイント（連結）
2017年5月期セグメント別概況（連結）
2017年5月期海外業績の概況（連結）
TOPICS こんなところにシグマ光機 - スマートフォン
TOPICS 新組織「技術本部」のご紹介
CSR活動
株主様アンケート結果のご報告
連結財務諸表
株式の状況/会社概要



©A. Maestas, LANL

since 1977

40th
Appreciation



Light Solutions
for Life.

光なら、きっとできる。

経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

「感謝」「挑戦」「創出」

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私どもシグマ光機は、今年4月に創立40周年を迎えました。これもひとえに株主の皆様のご支援の賜物と、深く感謝しております。

まだ世の中にないものを光で創り、皆様の「くらし」や「いのち」のお役に立っていく。「Light Solutions for Life®」という当社グループの決意も新たに、これからも「光」の可能性を形にする「ものづくり」への挑戦により、最先端の「光技術」を支えてまいります。そして、持続的な成長と企業価値の向上、着実な株主還元により、皆様のご期待にお応えしてまいりますと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

代表取締役社長 近藤 洋介

創立40周年の軌跡



2017年5月期業績（連結）

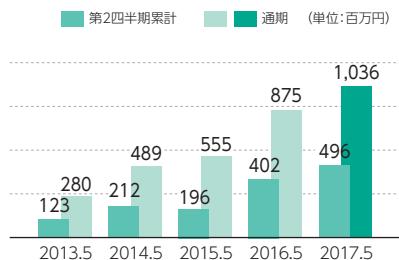
売上高 78億46百万円

(前年同期比 5.1%増)



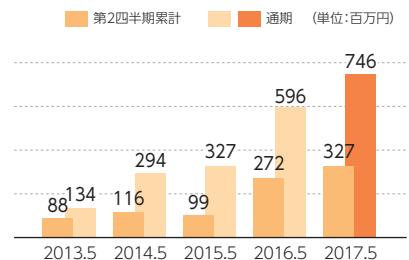
経常利益 10億36百万円

(前年同期比 18.4%増)



親会社株主に帰属する当期
(四半期)純利益 7億46百万円

(前年同期比 25.1%増)



配当金・配当性向推移（連結）

	12/5期	13/5期	14/5期	15/5期	16/5期	17/5期
配当金額（通期累計額）	34円（※1）	30円	30円	30円	30円	34円（※2）
配当性向（連結）（※3）	93.2%	167.8%	76.7%	69.1%	37.9%	34.3%

（※1）会社設立35周年記念配当4円を含む

（※2）会社設立40周年記念配当4円を含む

（※3）配当性向は、小数点第2位以下を四捨五入して表示しております。

2018年5月期業績見通し（連結）

産業分野の設備投資が回復基調で推移すると予想される中、当社グループにおいては、新たなウェブカタログ等によるグローバル販売の強化、新設した技術本部による新製品開発の強化、設備投資による内製化・生産効率化等に取り組んでまいります。また、次期予想配当は40周年記念配当を含む当期配当と同額の通期配当34円（予定）とし、積極的かつ安定的な配当を実施してまいります。

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	配当額
8,205百万円	960百万円	1,040百万円	690百万円	34円（※通期累計額）
（前年同期比4.6%増）	（前年同期比5.3%増）	（前年同期比0.5%増）	（前年同期比7.5%減）	配当性向（見通し）37.1%

2017年5月期業績のポイント（連結）

●世界景気の回復傾向を背景に産業分野の需要が堅調に推移

世界経済は緩やかな景気の回復傾向が続き、国内産業分野でも設備投資・研究開発投資に持ち直しの動きが見られました。大学・官公庁向け研究開発分野は横ばいでしたが、アジア市場のスマートフォン・車載デバイス等に関連する半導体・電子部品業界やFPD業界、米国市場のバイオ・医療業界等の産業分野において拡大する需要を、高品質な製品を安定的に供給する「ものづくり」で確実に取り込み、連結売上高は前年同期比で増収となりました。

●大口特注案件等で原価率が上昇も経費削減の徹底により増益を実現

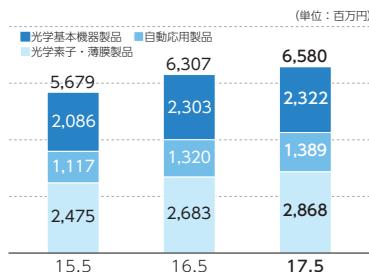
当期は、各製品セグメントとも堅調に売上高が増加いたしました。特に、光学システム製品を中心に、外部調達比率が高い大口特注製品等の受注が増加したことから売上総利益率が若干悪化いたしました。全社的な経費削減の取り組みと新規の設備投資、研究開発投資を抑制した結果、営業利益・経常利益とも増益となりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、税効果会計に基づき税金費用が減少したことで、大幅な増益となりました。

2017年5月期セグメント別概況（連結）

▶ 要素部品事業

■ 売上高

4.3% 増
(前年同期比 272百万円増)



ポイント スマートフォン関連分野の需要堅調

スマートフォンの高機能化、車載デバイスの需要拡大等を背景に、半導体・電子部品業界向けや、有機EL及びFPD業界向けで、レーザ加工機・検査装置への組込み用の需要が堅調に推移いたしました。また、米国地域では、バイオ・医療業界向けや半導体業界向けの需要が堅調に推移いたしました。

▶ システム製品事業

■ 売上高

9.3% 増
(前年同期比 107百万円増)



ポイント 産業分野で光学ユニット製品が堅調

産業分野の研究開発投資・設備投資の回復基調により、スマートフォン等に関連するレーザ加工機・検査装置への組込み用レンズユニット等の光学ユニット製品の需要が堅調に推移いたしました。バイオ業界向けでは、光学測定・分析装置製品や観察光学系システム製品の需要が増加傾向にあります。

2017年5月期海外業績の概況（連結）

●海外グループ会社売上高

売上高(連結)
7,846百万円



シグマ光機株式会社
6,971百万円



OptoSigma
Europe
292百万円



上海西格玛光机有限公司
413百万円

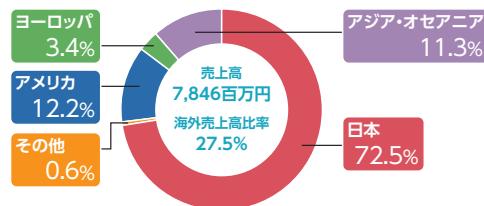


OptoSigma
1,087百万円

(※企業グループの内部売上高を含む)

●顧客所在地別概況

■海外売上高構成比



■顧客所在地別売上高・営業概況

日本	5,690 百万円	輸出の回復や公共投資の増加、雇用・所得環境の改善による個人消費の回復等を背景に生産活動が持ち直しており、半導体業界やFPD業界向けの設備投資が堅調に推移。
アメリカ	956 百万円	個人消費の持ち直しや企業収益の改善に伴う設備投資の回復等を背景に、バイオ・医療業界や半導体業界、光計測業界向けの組み用光学製品の需要が堅調に推移。
ヨーロッパ	270 百万円	地政学的リスク等による先行きに不透明さは残るものの、内需が牽引し、景気は回復基調で推移。大学・官公庁向け研究開発分野及び産業分野向けの需要が増加傾向。
アジア・オセアニア	885 百万円	中国をはじめとする一部の新興国では経済減速が続くも、当社関連業界においては回復基調で推移。スマートフォン関連の半導体・電子部品業界向けの需要が堅調に推移。

》グループ会社概況



2017年度に初めて売上高\$10Mを達成し、社員のモチベーションが向上しています。現在、新たに技術系の専門性の高い社員の採用を進め、今後は研究開発分野に集中的に展開してまいります。また、生産能力も向上させ、2020年までに売上高\$20Mの達成を目指します。



欧州に展開してから第3期目となりました。第2期から黒字化を達成し、売上高も順調に伸びています。OPTOSIGMA®ブランドの認知度も上がっており、EUのフォトリソ業界でも話題となっております。今後はeコマースに注力し、早期の売上高€10Mの達成を目指します。



第24期を迎え「生産性の向上とコストの低減」を命題に、更なる成長を目標として、事業に取り組んでおります。新興国特有の変化、変革のスピードに遅れないよう、グループの生産拠点の一つとして期待される役割を全うできる生産技術と生産効率の向上につとめてまいります。

皆様の豊かな「暮らし」を縁の下で支える。「光なら、きっとできる。」

材料加工、計測・分析・センシング等の光応用技術が必要な半導体、電子部品、医療・バイオ、通信、エネルギー、宇宙・航空等の成長分野で当社製品をご採用いただくことで、皆様の豊かな「暮らし」に貢献しています。



例えばスマートフォンの生産現場では

レーザプロセッシングシステム



4K解像度パネルや有機ELパネルなど、スマートフォンのパネルの生産ラインでは、多種多様の生産設備が導入されています。その中でレーザプロセッシングは、ガラスの外側からでも微細な加工や処理ができるためパネルの生産に必要不可欠な技術になっています。特にレーザリペアは、高精細化したパネルの歩留り確保のために、その重要性が増しています。シグマ光機では様々なリペアニーズに対応するための光学製品を供給しています。

自動光学検査システム



スマートフォンの普及は各種部品の積層化を飛躍的に発展させました。これに伴い、集積される部品では精密な3次元検査の要求が増えています。シグマ光機では、自社開発した高解像度低歪曲のレンズ、オートフォーカス装置、高分解能自動ステージ、焦点合成画像処理などを組み合わせることで、3D測定をはじめとする様々なタイプのAOI（自動光学検査）装置を提供することが可能です。

※スマートフォンの中に当社の製品は入っておりません。



近年、スマートフォンの高機能化や大容量化が進んでおり、関連する半導体・電子部品の製造技術、検査技術の高精度化が求められています。当社は、中核技術の融合・複合により、製造・検査に不可欠な光学関連部品の高精度化、耐環境化、低価格等を実現し、提供することを通して皆様の豊かな「暮らし」に貢献してまいります。

技術本部を新設し、「ものづくり」力の更なる強化に取り組んでいます。

2017年6月1日をもちまして、従来の開発部及び生産本部の各部門に所属する技術系人員を統括する組織を新設いたしました。第43期から新しく始動する技術本部の役割や成長戦略につきまして、ご紹介いたします。

Q | 技術本部の役割について

お客様の「欲しい」をいち早く開発する

技術本部は、シグマ光機の技術を支える専門部署として、中核技術の高度化や開発力強化に取り組み、お客様のニーズをいち早く開発することで皆様の「くらし」に貢献してまいります。

新設の目的

- ①各拠点・部門に分散していた技術開発機能を集約させて、中核技術の融合・複合による開発力の強化を図る。
- ②技術系専門部署として、生産・営業との連携を通して技術シナジーを最大化し、売上高拡大と収益力の強化を行う。

Q | 中核技術の融合・複合とは？

グループ総合力で新たな価値創造を加速

「光ソリューション・カンパニー」



当社は、中核技術である「光学技術」「機械技術」「電気設計」「ソフト開発」「システム化技術」を高めて、お客様の「欲しい」に応える「光ソリューション」を提供しております。技術本部を中心に、製品セグメントや拠点・部門を越えた中核技術及び人材の融合・複合を推進することで、市場変化に迅速・柔軟に対応できる体制を確立し、新たな価値創造を加速してまいります。

Q | 現在取り組んでいる分野

光技術を必要とする成長産業分野



光産業は、大きな可能性を秘めた成長分野であり、その裾野は急速に広がっております。集積化が進む半導体・電子部品。高品質検査が必要な有機EL・FPD。高速化・大容量化が進む光通信から、微細な細胞の観察及び低侵襲治療等。様々な過酷な環境で高安定な計測・分析が求められる航空・宇宙・防衛分野とエネルギー関連まで。「光」を必要とする分野は、これからますます拡大していきます。

Q | 今後の開発動向・成長戦略

お客様に「感動」をもたらす「光ソリューション」の提供

技術本部では、中核技術の複合・融合・拡張による開発力の強化とともに、複合技術人材の育成に取り組んでいます。また、生産・営業部門との連携を進め、お客様の想像を超える「光ソリューション」を提供してまいります。

さらに、当社グループの総合力を活かして光応用技術の市場動向をいち早くキャッチして、変化するニーズに迅速に対応できる体制を構築してまいります。

外部連携の事例



両国フォトニクスサロン

大学・研究機関の先生や学生の方々にお集まりいただき、光技術の講義やアイデアコンテスト等、光学ネットワークを広げています。

女性活躍推進に関する行動計画

当社は、女性社員を含む全ての従業員が様々なライフイベントに関わらず、安心・安全かつ継続的に就業できる職場環境の整備に取り組んでいます。引き続き働きやすく、働きがいのある会社風土の醸成のために社内制度の見直しを図り、ワーク・ライフ・バランスの充実につとめてまいります。

■ 計画期間

平成28年4月1日～平成33年3月31日（5年間）

■ 数値目標の進捗状況（平成29年5月末日時点）

・ 製造、開発職種の女性人員数

81名 ⇒ 94名（目標：99名）

・ 管理職の1つ下の階層（係長相当職）の女性人員数

10名 ⇒ 10名（目標：15名）

■ 取組内容（一部抜粋）

・ 中堅女性社員を対象とした育成カリキュラム

「働く女性サミット」を開催

・ 育児休業規程、介護休業規程を改定

（育児短時間勤務制度を拡充）

※詳細は当社のホームページをご参照ください。



http://www.sigma-koki.com/pages/ir/data/20170605_p.pdf

● 働く女性サミット



女性活躍推進に関する行動計画の取り組みの一環として、部門を超えた横断的ネットワークの構築と次世代の女性リーダーの育成を目的とした「働く女性サミット」を開催しました。働きやすい会社を目指し、女性の目線による意見交換や提案を行い、育児休業規程と介護休業規程の改定に寄与しました。



ものづくり社会を支える次世代人材育成

● 光の寺子屋



当社は地域活動として2006年より継続して小中学生を対象とした「光の寺子屋（出張科学教室）」を行っています。虹をテーマに光学実験を行い、子どもたちに「科学の魅力」「科学の面白さ」を伝えています。

■ 子どもたちからの感想

- ・ 科学のことにもっと興味があった
- ・ 虹の実験はすごく楽しかった
- ・ 楽しかったので家ででもやってみたい

● 先端レーザー科学教育研究コンソーシアム



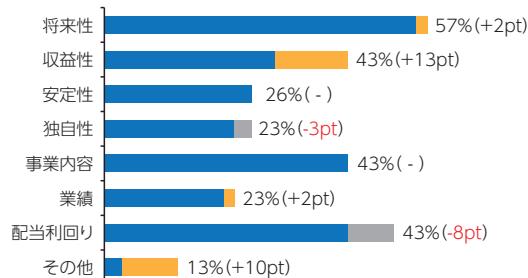
東京大学を中心として発足した大学院教育プログラム「先端レーザー科学教育研究コンソーシアム（CORAL）」は、光産業をリードする先端企業各社から招いた講師が講義や実習を行っていく、単位取得が可能な講座です。当社もその1社として発足当初から10年以上に亘って毎年参加しており、次世代の光科学分野を担う人材育成に貢献しています。

株主様アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

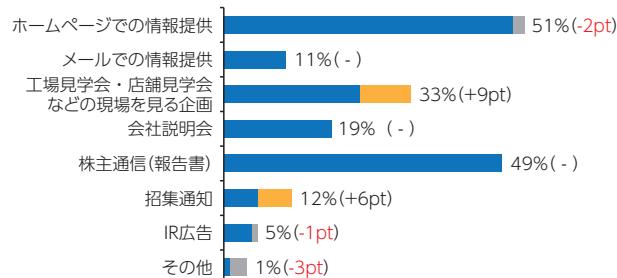
第42期中間報告書で実施させていただきましたアンケートにつきまして、アンケート対象の全株主様3,791名（2016年11月30日時点）の約2%に相当する84名の株主様からのご回答をいただきました。お寄せいただきましたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

●当社株式を購入された理由



※括弧内は、対第41期中間比

●充実を期待するIR活動



※括弧内は、対第41期中間比

株主様からのご意見

Q 世界競争を勝ち抜く高技術企業として成長してほしい

A 当社は、研究開発分野や民間産業分野の最先端のニーズにお応えするため、中核技術である「光学技術」「機械技術」「電気設計」「ソフト開発」「システム化技術」の高度化を図っております。また、本年6月1日付けで、中核技術の更なる融合・複合を図ることを目的として、技術本部を新設いたしました。営業・生産部門との連携を強化することで、市場ニーズにマッチした製品をいち早く開発してまいります。技術本部の詳細につきましては、P.6のトピックス欄に掲載いたしましたので、ご高覧ください。

Q 普段株主が直接見ることができないからこそ、製品については丁寧な説明を心がけていただきたい

A 投資家の皆様が当社製品を直接目にする機会が少ない現状を認識し、製品・技術に関する分かりやすい説明を心がけております。株主様アンケートで寄せられたご意見の中から、「スマートフォン生産現場における当社製品の関わり」について、P.5のトピックス欄に掲載いたしました。今後とも株主・投資家の皆様のご意見を真摯に受け止め、分かりやすい資料づくりに継続して取り組んでまいります。

株主様からのご意見・ご要望のご紹介

- 身近なところで、シグマ光機の部品が多数使われていることが、トピックスの説明でよく分かりました。
- 「こんなところにシグマ光機」の説明が非常に良い。文字だけでは興味をひかないが絵や写真を活用することによって関心が深まった。これからも読みやすい報告書を期待します。
- 日高市の本社の前をいつも自転車で走っています♪「普段目には見えなくても」社会になくてはならないモノをつくる会社としての成長を… 期待しています。
- 財務の健全性を維持しながら、収益性をより高めてほしい。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2017年5月31日現在	2016年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	8,986	8,007
固定資産	6,090	6,339
有形固定資産	2,777	2,837
無形固定資産	150	173
投資その他の資産	3,163	3,328
資産合計	15,077	14,347
(負債の部)		
流動負債	1,979	1,772
固定負債	916	901
負債合計	2,895	2,673
(純資産の部)		
株主資本	11,931	11,426
その他の包括利益累計額	201	199
非支配株主持分	48	47
純資産合計	12,181	11,673
負債・純資産合計	15,077	14,347

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2016年6月 1日から 2017年5月31日まで	2015年6月 1日から 2016年5月31日まで
売上高	7,846	7,466
売上原価	4,773	4,467
売上総利益	3,073	2,999
販売費及び一般管理費	2,160	2,208
営業利益	912	790
経常利益	1,036	875
親会社株主に帰属する当期純利益	746	596

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2016年6月 1日から 2017年5月31日まで	2015年6月 1日から 2016年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	826	995
投資活動による キャッシュ・フロー	△536	△467
財務活動による キャッシュ・フロー	△122	△396
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△19	△97
現金及び現金同等物の 増減額	148	34
現金及び現金同等物の 期首残高	2,650	2,616
現金及び現金同等物の 期末残高	2,799	2,650

》 解 説 ポ イ ン ト

● 連結貸借対照表

<資産の変動>

流動資産は、有価証券が4億6千5百万円、現金及び預金が3億3千7百万円増加したことなどにより前期末比12.2%増加いたしました。固定資産は、投資その他の資産の「その他」に含まれる長期預金が3億円減少したことなどにより前期末比で3.9%減少いたしました。この結果、総資産は、前期末比で5.1%増加いたしました。

<負債の変動>

流動負債は、流動負債の「その他」に含まれる退任予定役員に対する退職慰労金が1億3千5百万円増加したことなどにより前期末比11.7%増加いたしました。固定負債は、長期借入金が1億2千1百万円増加し、固定負債の「その他」に含まれる長期未払金の流動負債への振替により1億3千5百万円減少したことなどにより前期末比1.6%増加いたしました。この結果、負債合計は、前期末比で8.3%増加いたしました。

<純資産の変動>

純資産は、前期末比で4.3%増加し、自己資本比率は、80.5%となりました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物の期末残高は27億9千9百万円となり、前期末比1億4千8百万円の増加となりました。

営業CFは、税金等調整前当期純利益、減価償却費、棚卸資産の減少により増加し、法人税等の支払、売上債権の増額などにより減少いたしました。

投資CFは、有価証券の純増、有形・無形固定資産の取得による支出で減少いたしました。

財務CFは、主に長期借入れによる収入で増加し、長期借入金の返済による支出、配当金の支払により減少いたしました。



株式の状況／会社概要

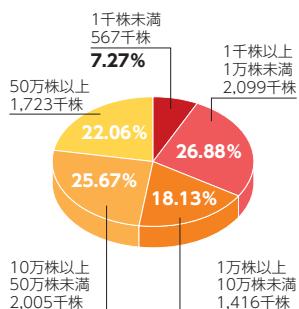
株式の状況 (2017年5月31日現在)

- ①発行可能株式総数 32,000,000株
 ②発行済株式の総数 7,811,728株
 ③株主数 3,681名
 (前期末比255名減)
 ④主要株主

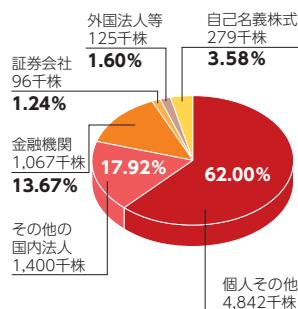
株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	13.28
森 聡二	723	9.60
シグマ光機取引先持株会	399	5.30
シグマ光機従業員持株会	262	3.49
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.70
富国生命保険相互会社	200	2.66
株式会社サンライズクリエート	164	2.19
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	155	2.06
杉山大樹	131	1.74
株式会社三井住友銀行	110	1.46

- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。
 3. 持株比率は、自己名義株式(279,372株)を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



所有者別株式分布状況



- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。
 3. 自己名義株式(279,372株)を含んでおります。

会社概要 (2017年8月30日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年(昭和52年)4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	340名(2017年5月31日現在)
役員	代表取締役社長 近藤 洋介 取締役 中村 良二 取締役 多幡 能徳 取締役 小林 祐二 常勤監査役 山口 秀一 監査役 南雲 幸一 監査役 野崎 誠

- (注) 1. 小林祐二氏は社外取締役であります。
 2. 南雲幸一氏及び野崎誠氏の2氏は社外監査役であります。
 3. 社外監査役 野崎誠氏は独立役員であります。

❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

❖ 関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。



株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行く。
電子公告URL <http://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7713

いいかぶ

検索

 空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

 **シグマ光機株式会社**
東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

UD
FONT

